



〒020-8515 岩手県盛岡市上田 3-2-1
TEL・FAX (019) 624-0765 (白壁記念館)
mail: info@hakua1880.jp
TEL (019) 623-4491 (学校)
http://www2.iwate-ed.jp/mo1-h/(学校)



英語部/全国高校生英語ディベート大会

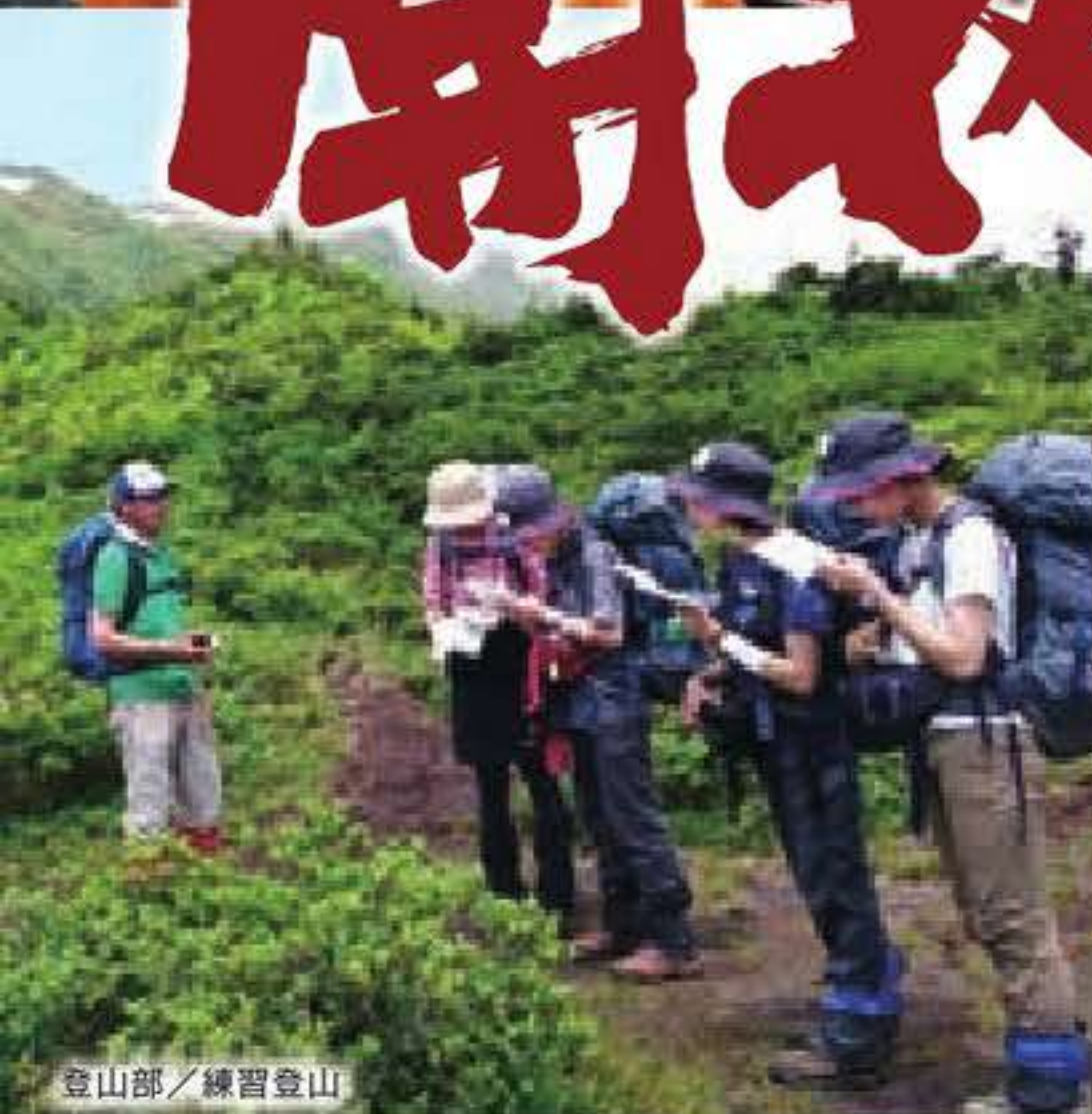


生物部/全国高総文祭

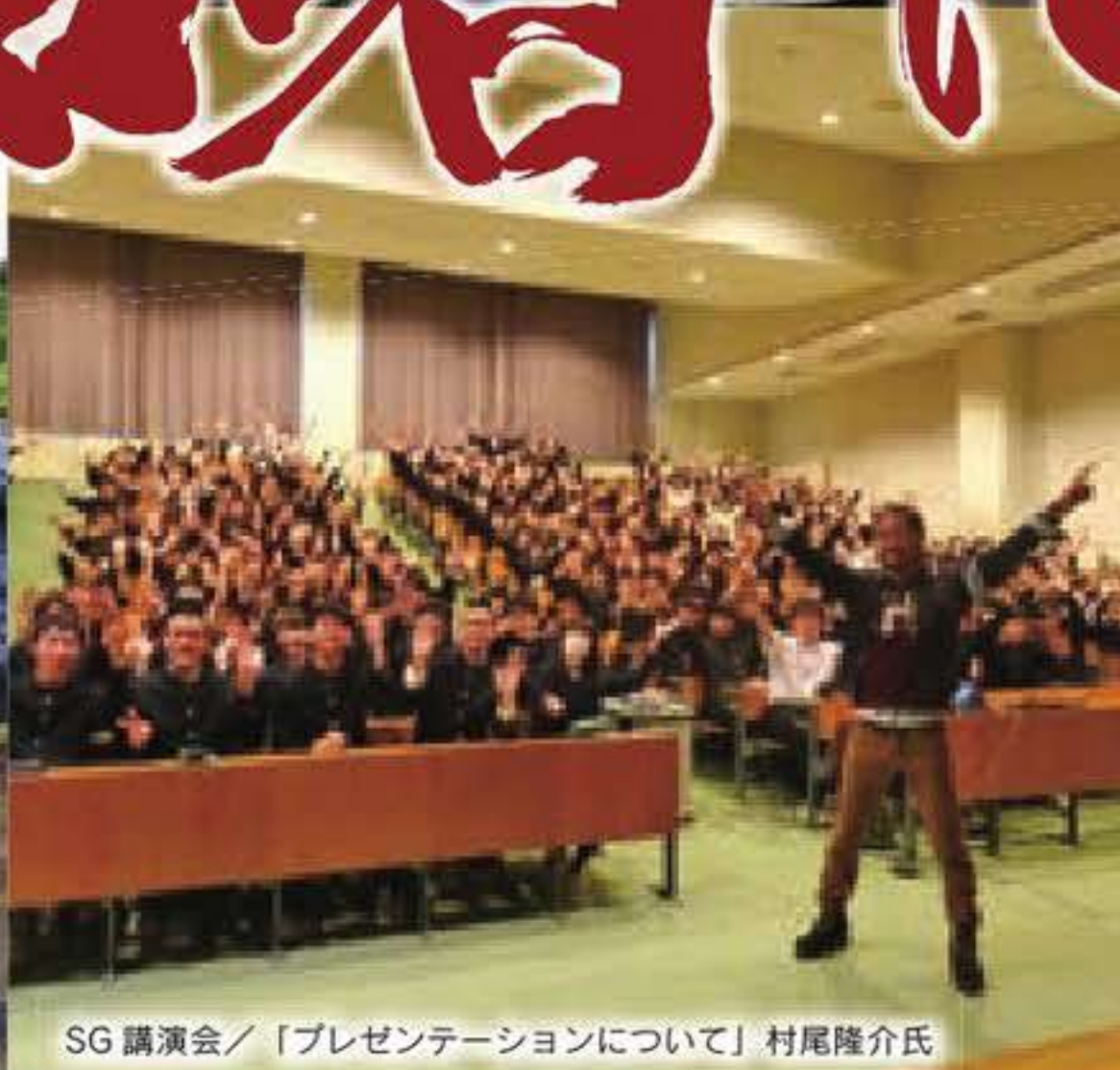


書道部/全国高総文祭出品作品
「臨何紹基張遷碑」3年 八重樫悠紀

開拓者たち



登山部/練習登山



SG講演会/「プレゼンテーションについて」村尾隆介氏



美術部/全国高総文祭出品作品 「memento mori」3年 高橋真優



第2回応援旗祭



悠久の連なりへ



白聖同窓会会長

藤尾 善一 (昭和45年卒)

同窓の諸兄諸姉各位におかれましては、お元気でお過ごしのことと存じます。日ごろは同窓会活動に格別のご理解とご協力を賜り、誠に有難う存じます。厚くお礼申し上げます。

今年の総会も、嬉しいことに、昭和20年卒業の大先輩諸士から、平成25年卒業の若獅子まで参加し、大いに盛り上がったところです。年齢差は、実に68年もありましたが、母校に寄せる思いは一つであることとを実感し、わけ隔てなく、栄光の青春を讃え、ともに盛岡の清秋を堪能したのでした。

特筆すべきは、川上校長自らもM旗を力強く振りながら、エールをリードしたことです。もし甲子園で戦わばの意気もかくや、の如き昂然ぶりでありました。

毎年のことながら、母校に触れ、母校を誇りに思い、英気を養う貴重、稀な機会であるとの感懷に改めて至った次第です。

さて、同窓生の集まりですが、地区別が札幌から大阪(関西)まで23、職場別が県庁、市役所、岩手銀行等11、クラブ別が剣道部、柔道部等12、計46もあり、その他、卒業年次毎の同期会は白聖三喜会、四十一(よい)会、疾風会、四三(よしさん)会、白聖二世紀会等無数

にあると承知しております。わが年代だけでも盛岡に五百回超えの開催を誇る十五日会や東京にはつだがわ会等ありますので、わが同窓生による白聖会の数はおそらくギネスもので、まさに誇るべき連なりと存じております。ことほど左様に母校愛の強い同窓生はほかに例を見ないのではないのでしょうか。

甲子園出場ともなれば、それらが一つに結集することになるものとは存じますが、それは間近という確信的観測もある一方で、まだ先のことという現実的？観測もあります中で、かねてから要望が寄せられていたウェブサイトの立ち上げを平成30年度事業として総会にてお認めいただきましたので、これを同窓会名簿や白聖通信に並ぶ礎石とし、各白聖会の結集を図ることといたしました。今後当サイトの活用による交流を活性化し、もって母校発展のための同窓生の悠久の連なりを更に確かなものにして参りたいと存じております。明年3月には開設いたす予定ですので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

最後になりますが、皆様の益々のご活躍とご健勝を心からお祈りし、挨拶いたします。

一期一会の再会



校長

川上 圭一 (昭和52年卒)

本年、全国高校野球選手権大会、いわゆる夏の高校野球甲子園大会が第100回を迎えました。本校は岩手大会の初戦に全校応援体制で臨みましたが、武運つたなく惜敗し、40年振り10度目の甲子園出場は夢と化したのでした。私は、出張先から盛岡に帰る途中の東京駅で、無常にも敗北を知りました。

本校は1978年(昭和53年)の第60回大会出場を最後に甲子園から遠ざかっていきます。さらに時代を遡る1968年(昭和43年)の第50回大会、8度目の甲子園出場を果たした本校は優勝候補を撃破するなど快進撃を続け、ベスト8進出の輝かしい戦績を残しました。ベスト4進出をかけた次の準々決勝で対戦したのが沖繩本土返還前の興南高校でした。当時は、沖繩の選手が甲子園に出場するにはバスポートが必要で、時代で、興南戦では、甲子園の銀傘に鳴り響く軍艦マーチ調の本校の校歌に拍手が送られていたそれまでの試合と球場の雰囲気が一変し、甲子園球場は興南の応援一色と化したといえます。その異様な雰囲気は飲まれ本校は敗退したと伝えられています。

当時の沖繩・興南高校の応援団長川満健一氏が「ぜひ当時の盛岡一高の応援団長にお目にかかりたい」と願っている」という声が、当時本校の応援団長を務めた佐々木裕氏のもとに届き、昨年、ほぼ50年の歳月を経て、遂に両氏の再会が実現したことを知りました。

その再会の場で、「野球では勝ったけれども、応援は完全に負けたという印象を拭い去れなかった。試合に負けても堂々と朗々と応援歌を歌う一高の姿に敗北感を味わい、それは人生観をも変

える出来事だった」と川満氏は佐々木氏に語ったのだそうです。

この逸話には続きがあります。今年の100回大会での再会を誓ったお二人の願いは叶うことはありませんでした。川満氏が、本年8月、興南高校の甲子園出場を見届けて不帰の客となつたのだそうです。興南・川満氏と本校・佐々木氏の再会は真正銘一期一会の再会となったのでした。

本校のバンカラ応援が一世を風靡した夏の高校野球甲子園大会から50年、生徒会誌「白聖」などを開くと、当時から応援に関して喧々諤々の議論が繰り広げられていた様子が窺われるのですから、いまだに当時と同様の応援スタイルが維持されていることは、ある意味で驚異でもあります。

しかし、近年、学校教育を取り巻く様々な環境の変化は学校で行う教育活動にも影響を及ぼしています。応援活動、応援歌練習等もその一例です。それらは、本校の伝統・歴史を体現するひとつでもあり、生徒自らが、時代の要請に応えながら、必死に守り受け継いでいるものですが、甲子園球場で対戦校の応援団長さんに感銘を与え、人々生観をも変えさせてしまう程の本校の統率のとれたダイナミックな応援、本校が忘れてはいけぬ本質を思い起こさせる逸話として語り継ぎたいと思います。

本校の同窓会である白聖会は各地にあります。白聖会会員一同、若いも若きも声高らかに校歌を歌い上げる姿に接するたびに、時空を超えて、誇り高く校歌を歌うことができる学校であり続けたいと心から願っています。

総会報告

平成6年次代表

山田 隆

◎日時／平成30年10月6日（土）
◎時間／午後1時～午後5時
◎会場／ホテルメトロポリタン盛岡本館
◎参加者／180名

去る10月6日（土）創立138周年
平成30年度白聖同窓会総会が盛岡市ホ
テルメトロポリタン盛岡本館にて開催
されました。自然災害が多く台風25号
が迫りくる中180名程の多くの皆様
にご参加頂きました。今年度は担当年
次として平成6年卒が幹事を務めさせ
て頂きました。例年通り総会の部・講
演会の部・懇親会の部と三部構成で開
催されました。

総会の部は、藤尾善一同窓会長、川
上圭一校長の挨拶の後、議案審議が行
われました。総会の進行は、議長とし
て山田隆（平成6年卒）、副議長として
安保寛明さん（平成7年卒）が選出さ
れ進められました。事務局から「会務
報告」があり、第1号議案「平成29年
度事業報告について」、第2号議案「平
成29年度決算報告について」、第3号議
案「平成30年度事業計画について」、第
4号議案「平成30年度予算について」、
第5号議案「創立140周年に向けて
の記念式典の開催及び10年小史発行に
ついて」以上5議案について上程され、
審議の上、満場一致で承認されました。

講演会の部では、例年、各方面で活
躍する担当年次の卒業生を紹介してお
ります。今年は、「医療による循環型
コミュニティの再創造」と題し、こと
のはグループ代表で医師の松嶋大さん
が記念講演を行いました。患者さんに
豊かな人生を送ってもらう為に医師と
してどう向き合うべきか、町医者とし
ての飽くなき挑戦について講演を頂き

ました。

講演会の部に引き続き、懇親会が盛
大に開催されました。林晶子同窓会副
会長による開会宣言、藤尾善一同窓会
長のご挨拶に引き続き、昭和29年卒の
土川伍朗様による乾杯のご発声により
華々しく懇親会の幕が開けました。宴
の中で、各地区白聖同窓会を代表し
て、盛岡市役所白聖会会長の谷藤裕明
様、永田町・霞が関白聖会事務局長の
階猛様からご挨拶を頂きました。限ら
れた時間ではありましたが、同窓生と
の再会や様々な世代の皆様との交流な
どとても楽しい時間を過ごさせて頂き
ました。締めくくりとしまして、平成
6年次応援団長藤原亮くんを筆頭に櫻
井正樹くん、古川岳大くんのリードに
より校歌斉唱並びに次年度主管の平成
7年次へのエール、我々の母校である
岩手県立盛岡第一高等学校へのエール
で閉会となる予定でしたが、興奮冷め
やらぬ状況となり、藤尾善一同窓会長
並びに川上圭一校長のリードによりま
すエールが急遽行われ、大盛り上がり
の中、高橋瑞彦同窓会副会長の閉会宣
言により、懇親会を無事終えることが
できました。

今回、同窓会の幹事を務めるにあた
り、同窓会事務局をはじめ、多くの先輩、
同級生、後輩にご協力頂きました。特
にも平成6年卒の同級生には、事前準
備から大変ご協力頂きました。総会当
日は、3連休の初日ということもあり、
岩手県内及び近県在住のメンバー、さ
らには関東から駆けつけてくれた仲間
もおり、あらためて白聖の結束力を実
感する機会となりました。

最後になりますが、あらためて多く
の皆様へ感謝するとともに、白聖通信
での報告とさせて頂きます。ありがと
うございました。

平成30年度白聖同窓会一般会計予算

収入

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会 費	8,800,000	8,000,000	0	4,400件×2,000円
入会金	558,000	566,000	-8,000	3学年分(279名×200円×10ヶ月)
予納金	1,474,800	1,462,000	12,800	1学年(286名×240円×10ヶ月) 2学年(282名×240円×10ヶ月) 3学年(279名×40円×10ヶ月)
繰入金	0	0	0	
繰越金	1,904,008	1,985,815	-81,807	29年度より
雑収入	11,092	12,420	-1,328	預金利息、宛名シール代
計	12,747,900	12,026,235	721,665	

支出					
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要	
事務費	280,000	400,000	-120,000	郵送代(切手込)、建物共済加入負担金 事務用品、振込手数料、残高確認書、電話代 白聖記念館施設使用光熱水量代、 タクシー代	
慶弔費	200,000	200,000	0	各白聖会派遣祝金、会議参加費、弔電代	
旅費	200,000	200,000	-50,000	各白聖会派遣旅費	
会議費	280,000	280,000	0	常任幹事会、卒業年次代表者会、編集委員会	
総会関係費	600,000	650,000	-50,000	会議資料作成代、講演謝礼 主管年次補助金、総会代金補助金	
事業費	1,418,000	450,000	968,000	新入生入学記念品代、應援旗祭、記念冊子、ウェブ開設費	
キャリアアップ費	150,000	150,000	0	講演者へ(謝礼金、交通費、宿泊費)、懇親会代 昼食代、案内チラシ代、テーブル起し代	
名簿作成費	0	0	0		
会報刊行費	3,000,000	3,000,000	0	38号発行代、全会員への郵送代	
事務局員費	1,487,000	1,469,952	17,048	事務局員給料、退職積立金	
国際交流費	1,500,000	1,500,000	0	白聖振興会へ	
財産積立繰入金	0	0	0		
部活動等奨励費	1,800,000	1,800,000	0		
夜間照明設備費	1,000,000	1,000,000	0	夜間照明設備特別会計へ	
会費振込手数料	572,000	520,000	520,000	4,400件×130円	
予備費	206,900	406,283	-145,383		
計	12,747,900	12,026,235	721,665		

平成29年度白聖同窓会一般会計決算

収入					(平成29年4月1日～平成30年3月31日)	(単位: 円)
科 目	予算額	収入済額	増 減	摘 要		
会 費	8,000,000	8,806,000	806,000	平成29年度入金 4,403件		
入会金	566,000	560,800	-5,200	3学年分		
予納金	1,462,000	1,448,960	-13,040	1・2・3学年分		
繰入金	0	0	0			
繰越金	1,985,815	1,985,815	0	28年度より		
雑収入	12,420	255,387	242,967	預金利息、宛名シール代、昭和60年卒寄付金(震災会)		
計	12,026,235	13,056,962	1,030,727			

支出

科 目	予算額	収入済額	増 減	摘 要
事務費	400,000	439,618	-39,618	事務用品143,012円(封筒代トナー代含)、 振込手数料1,836円、データ入力費118,800円 残高確認書3,024円、タクシー代5,880円、 電話代103,583円(インターネット通信費含) 郵送代(切手代含)56,626円、職員録4,320円 白聖記念館施設使用光熱水量代2,522円 建物共済加入負担金15円
慶弔費	200,000	196,454	3,546	各白聖会派遣祝金、会議参加費、弔電代
旅費	200,000	249,643	-49,643	各白聖会派遣旅費、DKシェアハウス視察
会議費	280,000	314,355	-34,355	役員会、常任幹事会、卒業年次代表者会、 0 慰労会、編集委員会
事業費	450,000	446,480	3,520	宮沢賢治歌碑説明板代、新入生入学記念品代
総会関係費	650,000	436,511	213,489	総会資料作成代、主管年次及び総会代金等 0 補助金、講演者謝礼、物品使用代
キャリアアップ費	150,000	0	150,000	
名簿作成費	0	0	0	
会報刊行費	3,000,000	2,990,007	9,993	37号発行、会員へ郵送
事務局員費	1,469,952	1,479,816	-9,864	事務局員給料、退職積立金、健康診断代
国際交流費	1,500,000	1,500,000	0	白聖振興会へ
財産積立繰入金	0	0	0	
部活動等奨励費	1,800,000	1,635,000	165,000	
夜間照明設備費	1,000,000	1,000,000	0	夜間照明設備特別会計へ
会費振込手数料	520,000	465,070	54,930	
予備費	406,283	0	406,283	
計	12,026,235	11,152,954	873,281	

収入済額 13,056,962 - 支出済額 11,152,954 = 差引残高(繰越金) 1,904,008

特集

スーパードグローバルハイスクール(SGH)事業 4年目の取り組みと今後の展望

本校は、平成27年度から5年間、文部科学省からスーパードグローバルハイスクール(以下「SGH」といいます。)の指定を受け、その研究開発構想に基づいた取り組みを展開しています。今年度で4年目となるSGHの取り組みと今後の展望について、本校SGH推進課主任の佐藤幸久先生に聞きました。

1 SGHとは何か

SGH事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、文部科学省が平成26年度から開始したものであり、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成することを目的としたものです。

この事業では、国際化を進める国内の大学のほか、企業・国際機関等と連携して、グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等をSGHに指定し、質の高いカリキュラムを開発・実践するものとされています。

2 本校のSGH研究開発構想——イーハトーブ世界(万人の幸福を希求するグローバル社会)の開拓者の育成——

本校のSGH事業は、これまでの国際交流事業(海外派遣研修)や理数科振興プログラム(課題研究、つくば研修、施設見学実習)の取り組みの成果を生かしながら、グローバル課題を発見し、原因を探り、解決法を探究・議論し、その成果を、

パイロットモデルとして、本国のみならず、世界に向けて発信する一連の取り組みを通して、21世紀の理想的なグローバル社会を開拓し得る人材、すなわち「イーハトーブ世界の開拓者」の育成を目指すことを目的としています。

1学年全員 問題発見能力、コミュニケーション能力の育成

2学年普通科全員 論理的思考力、問題解決能力の育成

3学年普通科全員 岩手から国内および海外へ研究成果を発信

と、段階を踏まえた取り組みを展開し、「イーハトーブ世界の開拓者の育成」を目指しています。

3 SGH指定に至る経緯

大学入試においては、知識をたくさん得る能力よりも、主体的に問いを立てられる能力が求められるようになってきています。そのような中、現場の教員から「SGHにチャレンジすべき」との発案があり、校内で検討した結果、SGHの趣旨は本校の目指す人材育成の方針に合致するものと判断、応募することとなりました。

平成26年度に1度目の応募をしました。準備期間が1か月しかなかったことから、アソシエイトにはなりませんが、指定には至りませんでした。その後、探究活動の内容等について検討を深め、平

成27年度に再度応募したところ、指定が認められ、指定期間5年間にわたる事業を進めることとなりました。

4 各学年の取り組み内容(平成30年度)

1学年 「研究の仕方」「取材の仕方」「プレゼンテーションの仕方」等の基礎を学び取ることに主眼を置き、盛岡市の協力を得て、地域における諸課題について、「高校生ならどう考えるか」という観点から、4人程度のグループで調査研究を行っています。

大学教員や民間の企業・団体の方などの外部講師に年2回程度来校いただき、指導・助言を仰いでいます。

10月には、全グループの中間発表を行いました。12月には関西フィールドワークを行い、調査研究を深めます。2月には学年発表会を行う予定です。

2学年

1学年での調査研究によって生まれた問題意識を国際的な視点にまで高めることを目指して、6つの分野(①21世紀型の都市、②観光、③地域ブランド、④教育、⑤ILC誘致に伴う知の拠点化、⑥地域医療)から研究テーマを選び、さらに調査研究を進めていきます。1学年時と同じテーマを深めることも、全く別のテーマを選ぶことも可能で、各生徒の関心に応じて研究グループを構成しています。

研究テーマの多くは、国連のSDGs(持続可能な開発目標)を踏まえて選定されています。

1学年と同様、外部講師に年2回程度来校いただき、指導・助言を仰いでいます。

3学年

2学年時に完成させた研究成果を英語にしていきます。6月には、英語によるプレゼンテーション発表を行いました。この発表においては、県内在住の外国人留学生等を招いて発表をお聞きいただいたうえで、英語による質疑応答も行われました。

5 台湾フィールドワーク

海外フィールドワークは生徒の国際的視野を養うための取り組みとして大きな意義や有効性があります。SGH事業終了後の継続も視野に入れ、昨年度までの米国・ボストンに代わり、今年度は台湾において、11月10日(土)～24日(土)に希望者から選考された生徒12人と引率教員2人で実施しました。

最初の3日間は、本県と交流のある台湾・花蓮県の大学及び高校を訪問しまし



外部講師による地域創生プログラム(1学年)

その後、台湾・国立政治大学において大学教員の講義、アドバイスを受けた上で、現地留学生とともに台湾でのフィールドワークを行い、その調査結果を踏まえさらに考察を深めました。最後は、政治大学付属高級中学において研究結果を英語でプレゼンテーションし、高校生同士で議論を深めました。



台湾での現地調査

6 今後の見通し

本校のSGH指定は平成31年度までですが、国の制度見直しにより、その後は国費で類似の支援を受けられるかどうかは不透明です。

生徒へのアンケートによると、「探究学習が好き」としている生徒の割合は7割程度となっています。従来のペーパーテストとは別の新しい学力の必要性は、多くの生徒が感じているところです。

本校では、現在のSGHの取り組みをさらに洗練させることにより、本校の総合学習における探究学習の形態を確立させたいとの考えを持っています。

生徒インタビュー

「働き方改革・仕事とキャリア形成」をテーマとして調査研究を進めている1学年146班のみなさんにお話を聞きました。

1 中間発表の概要

「(1) このテーマを選んだ理由」「働き方」は自分たちの将来にもかかわると考えたからです。また、現在の「働き方改革」は、単なる時間短縮にとどまるものがほとんどであり、時間以外の改革による効率化が必要だと考えたからです。

(2) 調査研究の方法

株式会社ブイキューブを訪問し、インタビューを行いました。

インタビューでは、自分の仕事が終わっても帰りにくい同調圧力が日本企業の多くにみられるとの話がありました。

機械・ITの力を活用し、ただ長時間働くのではなく、自分で仕事をマネジメントすることが大切であり、時間よりもやりがい、文化などを大切にしたいと感じました。

(3) 関西フィールドワークにおける調査の予定

京都市内の製造業の会社や、働き方改革を主導している商工業者団体等を訪問し、「同調圧力」について調査したいと考えています。

2 中間発表終了後のインタビュー

Q…テーマの選定は、グループの中で決まりましたか。それとも、決めるまでに色々議論がありましたか。

A…比較的すんなり決まりました。

Q…「同調圧力」は、インタビューをした企業にも存在する課題ですか。

A…インタビューをした株式会社ブイキューブは、働く場所を比較的自由に選べる環境にあるので、「同調圧力」は少ないですが、日本企業一般には「同調圧力」が多くみられるとのことでした。

Q…「機械・ITの力を活用」とは、具体的にどのようなことを考えているのでしょうか。

A…例えば、単純作業を機械やAIに置き換えること等が考えられます。

Q…仕事のやりがいを過度に強調すると、健康を損なうような働きすぎを招くこともあり得ます。そうした点について、どのように考えますか。

A…自分で自分の仕事を決められるようにすることが重要だと考えます。

Q…ありがとうございました。今後、より一層充実した研究を期待しています。

【用語解説】

ILC (International Linear Collider 国際リニアコライダー)
全長20kmから50kmの地下トンネルに建設される大規模研究施設。大型の線型加速器としては、世界最高・最先端の電子・陽電子衝突型加速器であり、世界中の素粒子物理学の研究者が協力し、「世界に一つだけ」建設しようという計画が進んでいる。本県の北上山地が有力な候補地となっている。

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)
2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17の目標及び169の達成基準から構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいる。

台湾・国立政治大学 (National Chengchi University)
台湾・台北市にある台湾有数の総合大学。もともとは、上級公務員の養成学校だった。

株式会社ブイキューブ (Vcube Inc.)
東京都目黒区に本社を置き、主にウェブ会議、テレビ会議等のビデオコミュニケーションツールを扱う企業。東京証券取引所市場第一部上場。

執筆者所感

今回、同窓生代表として様々な取材させていただく中で感じたことは、SGHの取り組みは、校外の大学、企業、団体等の協力があってこそ成り立っているということ。また、高校生という多感な時期に、社会を支えているたくさんの「大人」と直接関わり合い、いろいろな刺激を受けながら思考を深めていく過程自体にも大きな意味があり、生徒たちの飛躍的な成長につながっている、ということも強く感じさせられました。

SGH事業により御協力いただいている皆様、また日ごろより本校の教育に関心を寄せていただいている皆様に、同窓生を代表し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私たちは、生徒たちの「学びたい」「知りたい」という意欲に応え、「必要なときに必要な手を貸す」大人でありたい、との思いを強くしました。

特別講演

「医療による循環型 コミュニティの再創造」

講師／松嶋 大氏（平成6年卒）
（まつしま だい）

ことのはグループ代表
なないろのとびら診療所所長

こんにちは。私は在学中、中央執行委員を2期務めました。私の代で一番の仕事は土人踊りをやめたことです。当時雑誌や人権団体から激しくたたかれました。存続か改定か生徒総会で話し合いました。結局改定し猛者踊りに変える等多数決で承認されました。

そんな若輩者の私が今やっていることをご紹介したいと思います。

「もっと早く出会いたかった」

「もっと早く出会いたかった」末期がんで私のところへやって来た患者さんの言葉です。

初めてお会いしたときに「今一番何をしたいですか」とお聞きしました。すると「ゆっくり寝たい」と。「え？毎日寝ているんじゃないの？」「いや、もう半年以上ゆっくり眠れていない」。なるほどということ、ほんの少しのお薬を調製しました。その数日後、どうですかと聞いたら、「6カ月ぶりにゆっくり眠れた」とおっしゃいました。「こんなことだったら、早く先生と出会いたかった」と。私の力を必要としている方の存在を喜ぶ一方で、もっと早く出会えていたらという切なさや交錯しました。

私はただの町医者にすぎません。そんな私に何が出来るのか。何をなすべきなのか。私の力を必要とする目の前の人にとって最善とは何か、いつも自問自答しています。

私はどこからきたのか

かつて、哲学者の中村雄二郎さんの「臨床の知とは何か」の一文に大いにショックを受けました。

「これまで科学的立場に立つと自称する医者たちが、客観主義や普遍主義の名の下に、どんなに多くの場合に責任を回避してきたことだろうか。そのために失われた医者への信頼が少なくないのである。」

私はEBM (Evidence-Based Medicine) 「根拠を基にした医療」というのがまさにピークを迎える時代に医者になりましたので、客観性は非常に大事だとたまたま達めました。たとえば患者さんに説明をするときに数字などを並べます。それ自体は否定されるものではないと思うんですが、インフォームドコンセントの名の下に、あとは患者さんにお任せしますというのは、もしかすると医者が責任を回避していたのかと、がく然としました。

「びゅっと打ってくれ」

もう一人私が長らく訪問診療をしていたミサオさんをご紹介します。行くと毎回「先生、もう早く逝きたい。」と言われます。九十歳をこえていました。

あるとき発熱して往診しました。ミサオさんは入院はしたくないと言いましたが、私は無理だと判断し、「ミサオさん、ごめん。今回ばかりは病院に行ってくれ。そしてすぐ帰ってきてくれ。そして家で亡くなるう。」とお伝えしました。仕方ない、行くと打ってくれた後、ミサオさんが私に「先生、びゅっと打ってくれ」と言うんですね。つまり何か注射でも打って、このまま殺してくれと言うんです。何回も言うんです。私は「ミサオさん、すまん。俺は捕まるわけにいかん。もちろん人間としてもできない。」と言って病院に送り出しました。

まもなく「先生にすまないと打ってくれ」と私に伝言を託し、ミサオさんは亡くなりました。何を私に謝ろうとしていたのか。ミサオさんの九十何年間の人生を考えた時に、私は最善を届けることができたのかと激しく自問自答しました。

どんなときも、さいごまで一緒に。

寝たきりの患者さんに、写真を撮ろうよと言ったら、ぱっと起きてご夫婦で撮ってくれました。亡くなる3日前です。これがお家で亡くなるということ。この方に最後、私は、「どんな人生でしたか」とお聞きしました。私は亡くなる方全員にこのフレーズを尋ねるんですが、「全うした」と答えて、次の日、息子さんの到着を待って亡くなりました。

私は、全ては大好きなあなたの幸せを願い、

最善を届けるために事業を展開しています。例えば先ほどのミサオさんに「先生、生きてるといくらかいいことあるもんだね」と言ってほしかった。私、聞いたんです。「九十何年生きてきて、何かいいこと一つくらいないですか」と。そうしたら「うーん、全くない」と言うんですよ。そのミサオさんに笑ってほしいと思って、私は盛岡市みたけにデイスービスをつくりましたが、ミサオさんには間に合いませんでした。

私は何者か

私の本体は「なないろのとびら診療所」ですが、医療機関でできることには限りがあるので、別の会社をつくってとやっているうちに6事業になりました。

私たちの「ことのはグループ」の理念は「心からのやさしさと真心に満ちあふれる最善を、大好きなあなたへ届けます。」ビジョンは「コロナのバリアフリー」。「生まれてから人生の最後の瞬間まで、大好きな場所で、大好きな人と、健康な時も、病気の時も、障がいがある時も、安心して楽しく輝ける豊かな人生を送れる社会の実現を目指します。」

医者をやっておりますと、この「安心して」というところまでは、ほぼ達成できます。しかし、病気がないあるいは健康的であるだけで人生が楽しいわけではもちろんありません。そうすると、楽しくそして輝く豊かな人生を送るためには、どうも診察室で医者っぽいことだけをしていても仕方がないと思って、いくつかの事業を起こしたわけです。

わたしたちの事業

今は4つの事業所があります。仙北町に本部があり、前九年とみたけと八幡平でも運営しています。

仙北の事業所は「屋根のついた公園」というコンセプトでやっています。診療所から出ると、「暮らしの保健室」という地域の方が誰でも気軽に集える場所があります。その奥には「ことのはきつちん」。結局人は食べたものでできている、やはり食から考えないといけない。患者さんの便秘を治すために野菜ジュースがいいと聞いて、ジュース屋をつくりました。今ではカレーも出せるカフェ「ことのはきつちん」医師監修ということでやっています。

前九年は患者さんのご自宅でした。もう九十九歳になつて、最期は家で亡くなりたいとい



うお気持ちでしたが、お家は空き家でした。だったら我々が施設をつくって、そこに帰ってくればいいということ、今年の7月に「ゆきのいるT H Eはうす」という宿泊もできる看護小規模多機能施設をつくりました。その大家さんは無事帰ってきて、恐らくそう遠くないうちにこの自分の家で天寿を全うされるんだろうと思います。

次にみたくです。先ほどのミサオさんを喜ばせたいと構想した通所介護、いわゆるデイスービスの事業所です。これも患者さんのご自宅を改修しました。「DAYS BLG」という通所介護と「なでしこいろ」というケアマネジャーの事業所です。あともう一つ、「駄菓子屋ともちゃん」。駄菓子屋は昨今だいぶなくなりましたが、この駄菓子屋のおかげで、地域の方が自由に集うような場に少しずつ成長しています。最後に八幡平ではサービスピ付き高齢者向け住宅というものを運営しています。「オークフィールド八幡平」、オーナーは私、医者であり、看護師もいますので、もちろん最期まで暮らせます。また「ことのはきつちん」で作るジュースの素材を自分たちでつくろうということで、八幡平の松尾に「ことのは農園」という農園を運営しています。これも私がお看とりした患者さんのご家族の農地を借りています。「オークフィールド」の入居者さんに有償ボランティアでやっていたいいます。



循環型コミュニティの創造

人・物・そして物語が、地域の中や地域の外、地域の間、世代の中、世代の間を、ぐるぐると循環するような仕組みをつくりたいと考えています。地産地消とか6次産業という言葉がありますが、それはどちらかというと一方通行的なものです。そうではなくて、例えば農地でとれたものの思いが食べる人に届いて、また農地に戻ったりという、物語が循環するような仕組みがあったらいい。

田舎にはおいしいニンジンやリンゴをつくれる匠はまだたくさんいますが、泣く泣く畑をやめるとい話を聞きます。うちの田村師匠はおいしいニンジンをつくれる知識も技術もそとして経験もある。しかし腕力だけがなくなってきた。私たちは知識も技術も経験もない。でも腕力だけはあるから、じゃ、我々が行って教わったらいんじゃないか。それが「ことのは農園」です。スタッフ2人が田村師匠の下で腕力となつて、2年目に入りました。田村さんが今年うちの農園でつくったニンジンを食べて、「お、これは負けちゃったかもな」と言ってくれました。

地域の中にある

こうやって、おいしいニンジンやリンゴの作り方が世代を超えてつながっていく。そしてそこでとれたニンジンも、もちろんすぐ盛岡や奥州フィールドに持って行って調理して皆さんに振る舞うんですね。そしておいしかったよという声をまた師匠に届けて。そういう循環の仕組みがつくれたらいいなと思っています。

私は「地域の中にある」ということをモットーにしています。「地域に寄りそう、診察室を飛び出す」という言葉がありますが、僕はすごく違和感があります。「地域に寄りそう」というのは何となく上から目線な気がする。「地域に飛び出す」と言っている時点で私たちは地域の外にいるんですね。そうではなくて、地域の中にこそ私たちが存在をし活動したいと願って、いろいろな事業をやっているわけです。

さいごまで輝く 今後のビジョン

「駄菓子屋ともちゃん」は地域の祭りに出ています。通所介護「DAYS BLG」の利用者さんが駄菓子屋ともちゃんの店員になって、地域の人に駄菓子屋を売りながら物語を循環させている。私の母校の仙北小学校に本を寄贈したり、「屋根のついた公園」を地域の方に開放してクリスマスコンサートをやったり、地域と世代を超えて物語がつながっていく。

でも私はあきらめずに毎回滝田さんに言い続けました。するとあるときに、「じゃあ、やってみようかしら」ということになって、着物を着てみんなで開業記念の写真を撮ることになったんです。

その日やってきたアシスタントの方と滝田さんの話がすごく印象に残っています。滝田さんが「私はもう力がないから、あなたやっちゃんうだい」と言うと、その方が「いえ、今日は先生の技術を学びにきました」と言うんです。先ほどのニンジンと同様、滝田さんには、もうあふれんばかりの知識と技術と経験がある。しかし腕力がなかった。お弟子さんは腕力もある。知識も技術も経験ももちろんあるんだけど、さらなる経験や技術、物語を滝田さんから引き継いでいく。着付けの先生から着付けの先生へと物語がつながった瞬間です。この後滝田さんは完全に現役復帰しました。うちの娘の七五三やお孫さんの結婚式の着付けをするというところまでです。

この滝田さんとの出会いを通じて、どんな年を取っても、病気や障がいがあっても、お年を取られた方にはあふれんばかりの物語と経験があるということを確信しました。腕力はないかもしれないけれども、私たちが少しお手伝いをすれば、まだまだその方々は輝き続けられる。病気のときも、いつまでも最期まで輝き続けられる豊かな社会というのが、私たちのビジョンになったわけです。

ココロのバリアフリー

心のバリアフリーというのは私たちが普段相手に感じているバリアです。たとえば高齢者を僕らは病人か介護の対象のように見てしまうことがありますが、そうではない。そのバリアを取り払って、障がいや病気があっても同じ人間、人生の先輩である、フラットにやり続けようじゃないかという社会をつくりたい。

今は主に高齢者主体の事業展開をしています。が、先ほどのオークフィールドを一般賃貸として広く開放したいと思っています。精神障がいや身体障がいの方も普通に入るような住まいにしたい。私たちの高齢者ケアのノウハウを障がいをお持ちの方にも展開して、環境のいいところに住んでももらえたらいいなと思っています。

そしてもう一つ、障がいを持つ方が働く場が少ないという問題があります。私たちは一部の

事業所をA型・B型に転換して、さらにオークフィールドと農園で障がいの方だけではなくて高齢者や一般の方も一緒に働けるようにして、オークフィールドを本当に誰にでも開かれたフラットな場にしたいと思っています。

先人 関口さんの思い

「オークフィールド八幡平」は社会福祉法人みちのく協会の理事長であった関口さんという方が創業しました。関口さんの創業時の言葉をお伝えしたいと思います。

「いつかは故郷に戻って暮らしたい。大好きな溪流釣り、畑仕事、絵を描くことも。引退した今だからこそやれる。元気なうちには何でもやろう」私たちはそう考えるこれからのシニアの方の暮らしを支えたいと考えております。それは医療・介護によるサポートにとどまりません。余暇のお手伝いでもありません。生きがいの創出こそが私たちの目指すことです。

「誰かの役に立ちたい」これは高齢者だけではなくて、障がいのある方あるいは全ての方に言える言葉だと思います。人が再び立ち上がろうとするのはこのためではないでしょうか。たとえ引退した後であっても、経験をいかして子どもや若者を支援したり野菜づくりをしたりすることができるといいですね。

私たちは多くの経験をお持ちのシニアの方々に、できる範囲でもう一度地域を支える使命を担っていただきたいと考えております。そして次世代へ皆さまの知恵を伝承し、文化を継承していきたいと考えます。

私は関口さんにお会いしたことがないんですが、「経験や物語を次世代へつなげていく、思いを循環させていく」ということをすでに考えて実践している先人の存在を知り、私は衝撃を受けて、何となくでもこのビジョンをやり遂げたいと思いました。

「生まれてから人生の最期の瞬間まで大好きな場所、大好きな人と、健康な時も、病気の時も、障がいがある時も、安心して楽しく輝ける豊かな人生を送れる社会の実現を目指します。」

そのためには医療だけではなく、さまざまな事業を通じて、人、物、地域、そして物語が、一方通行ではなくて、私たちの中、地域の中、あるいは世代を超えて循環していくような実践をやっていききたい。一人一人の患者さんの幸せを願って、全ての患者さんに幸福と最善を届けたいと思っています。

同窓会だより

出会い

岡田和士（白聖四三会幹事）（昭和43年卒）

自分の人生は、本人の努力にもよりますが、人との出会いによるものにも大きな影響を受けると思います。

昭和43年3月に卒業した我々418名は、昭和50年代に入り、家業のため地元盛岡に戻ってきたり、地元就職した連中が中心となり、毎月1回、4と3を足して7日7時を期して集まり、情報交換は表向き所謂飲み会を開くことにしました。仲間の駐車場とか梅の湯という銭湯なども利用しました。

多くは卒業後何年という節目に同期会を開催しますが、我々四三会は、東京五輪の翌年入学し、その時出会って何年という基準で大きな同期会を開催しました。「お前と出会うなければ」「お前と出会うおかげで」。そうした感謝の気持ちがエネルギーになってこの会を継続させてもらっていると思います。

当初は谷藤文明君や吉田良一君らが幹事をしていました。やがて、参加者も増え職業グループや部活グループで交代で幹事を務めるようになり、仕事で多忙になるにしたがって、再び常任幹事、藤村裕蔵君らによる毎月の四三会に戻りました。私は退職後無理矢理押しつけられ、若松信行君の「俺らは生涯応援団なのだ。」という何とも理解しがたい一言で引き受けてしまいました。その後大場祥司君が元銀行マンということで会計担当として幹事をお願いして現在に至っています。

やがて、在京白聖四三会も立ち上がり、出会ってから30年を皮切りに10年ごとに盛岡、在京の合同による会が開かれ毎回、4分の1以上の参加がありました。

平成27年には「君と出会って50年」と銘打ち5月16日に集まりました。初めに、遊座昭吾先生に選定をお願いし、浄財を募って、同期の若松君が設計、製作した啄木の「盛岡の中学校の露臺の」の歌碑の除幕式を在校生を交えて。その後移動し、ホテルメトロポリ

タンで丁度100名の参加で催されました。2次会では懐かしのグループサウンズの歌に酔いしれ、翌日は震災被害地の見学の組とゴルフ組に分かれ再会を誓って解散しました。その際、古稀のお祝いもしたらどうかという提案があり、3年後では参加者が40名程度だろうということで、同期の岩館政明君が経営する料亭駒龍において、未だ健在な高橋力先生をお迎えし、古稀祝いの会を開きましたが、なんと70名を超える参加がありました。

毎回集まって、何を話しているのかとよく言われます。そこで次のようなことを考えました。母校の校章は「真善美」を表しているといえます。真とはいわりのない、まこと、ありのままの本当の姿、善とは偏りのない「愛」、美とは「調和」ということを聞いたことがあります。当時は言葉としてしか解りませんでした。年齢を重ねるにつれこの言葉の意味を理解できるようになってきました。恐らくこの共通認識が高校の同期会を継続していく力になっているのかもしれないと思います。

うらをみせ
おもてをみせて
ちるもみじ

（伝 良寛辞世の句）

古稀を迎える歳になり、ありのままの自分を見つめながら、同期の仲間との、さらなる新たな出会いがあるかも知れないことを信じていたいと思います。



同窓会だより

卒業三十周年を迎えて

松田政樹（昭和63年卒年次代表）

去る1月2日（火）昭和63年卒、卒業30周年記念同窓会が盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡本館で開催されました。お正月の帰省に合わせた開催で、75名という多くの同期生に参加してもらいました。当日は、写真撮影の後、ピアノの森知英さんによる素晴らしい演奏にて開会。女鹿芳文硬式野球部元主将の乾杯の発声にて祝宴が始まり、講演の部では「県民球団いわてビッグブルズの経営のプラットフォームを作る」と題し、北館洋一郎氏に講演いただきました。恩師では鈴木守先生、黒澤勉先生に出席いただき、当時の思い出話や近況報告を交えてご挨拶していただきました。締めくくりにとしまして私達が一年生の時の応援団長であった、及川謙氏（昭和61年卒）、同期の金子文彦氏のリードによる校歌斉唱、エールが行われ、大いに盛り上がったところで閉会となりました。その盛り上がるの、会場をホテルメトロポリタンニューウイング盛岡・ジョパンニに移し、50人の参加をいただき二次会を開催しました。

この場で卒業年次の昭和63年にちなんで、同期会を六三会（ロクサンカイ）と称して、今後活動していく事を決定しました。限られた時間ではありましたが、同期生との再会を楽しみ、有意義で思い出に残る時間を過ごすことができました。



した。前年の創立記念日である5月13日（土）に、卒業30周年記念同窓会の開催を決定し、幹事を中心に参加の呼びかけ、同窓会当日の式次第や役割分担の打ち合わせ等、会合を重ね、盛会のうちに終える事が出来ました。あらためて皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

国体・インターハイ・全国高総文祭 全国大会出場今年も続出！

水泳部

全国大会を通して

3年3組 小笠原 伊吹
私が全国大会に出場して感じたことは二つありました。

1つ目は全国の舞台で調子いい状態に合わせることの難しさです。私は、大きな大会になると調子を合わせられない傾向があり、実際に今回もうまく調子を合わせる事ができず、自分のベストなパフォーマンスをすることができませんでした。やはり、強い選手になるためにはメンタルのコントロールも大事だと実感しました。

2つ目は支えてくださった方への感謝の気持ちです。全国大会に出場できたのは自分の力だけではなく、たくさんの方に支えてもらっていたおかげだと感じました。親や顧問の先生、そして友達からも激励の言葉をもらい、それを自分のパワーに変えることができました。

今回の経験を通して、自分の課題を見つけられることができました。水泳で培った精神力をこれからの生活に活かしていきたいです。



登山部

インターハイを終えて

3年2組 西森 優

初めに、これまでご指導くださった顧問の先生方、応援して下さった同窓生の方々をはじめ、日々サポートしてくれた部員、家族など、本当にたくさんの方々に支えられて全国という舞台に立てたことをとても光栄に思います。心から感謝申し上げます。

私たちは三重県鈴鹿山脈で行われたインターハイに出場してきました。去年の優勝に続く連覇を目指し、全力を尽くして準備を重ねてきましたが、結果は7位と入賞はなりませんでしたが、正直悔しい気持ちもあります。自分たちに足りなかったものをしっかりと見つめ直すことができた貴重な経験でしたし、4人で山を楽しめたのが何よりの財産になりました。また、今回良い雰囲気でも本番を迎えられたのは、部員の協力が大きかったです。これからも、登山部一体となって高みを目指してほしいと思います。

支えてくださった方々、応援して下さった方々、本当にありがとうございました。



弓道部

2度の全国大会と3度目に向けて

2年1組 小野寺 叶

まず、指導して下さった先生方、応援に来て下さったOB・OGの皆様にも心から感謝申し上げます。

私達弓道部女子団体は県選抜大会で史上初の団体優勝を果たし、滋賀全国選抜大会に出場し、続く新人戦でも優勝を果たし、福島の東日本大会に出場してきました。全国選抜では予選敗退に終わりましたが、東日本大会では決勝トーナメント1回戦までは進むことができました。

私は県選抜から団体の「中」を務めてきました。全国選抜では会場に入った瞬間から空気が違うことを感じました。緊張で手が震え、雰囲気にもまれた大会を初めて経験しました。その反省を東日本大会に活かし、なんとか予選通過しましたが、自分の1本にかかる責任の重さと痛感した試合でした。



陸上競技部

今まで経験した全ての大会は1つも簡単なものではありませんでした。中でも全国大会ではいつも通りを表現することが本当に難しいです。2度の全国大会を経験し、そこで1歩でも先に進めたのは確かな成長だと思います。私は個人で3度目となる岡山全国選抜を控えているので、そこではいつも通りの自分を失わず戦いたいと思います。これからも私たちは「洗練し続ける射」を目標に、正射的中の両立に取り組んでいきます。



全国大会を経験して

2年2組 山中 愛仁果
私たち陸上競技部は三重インターハイをはじめ様々な大会へ参加してきました。

私は今年初めてインターハイでの試合を経験し、競技する身として大事なものを感しました。実際に、試合が始まるにつれ、これまでに自分がやってきたことと瞬間の焦点が合わず、ただ時間が流れていくだけでした。そんな私

と対照的に決勝の舞台で真剣な表情でかつ楽しそうに勝負をしている人や、前日にしっかりと勝負に出ていることをやりきったと良い表情をしていた仲間を見て自分は何をやっているのだと思ひました。

ほんの少しの瞬間に何年、何百日もかけて積み重ねた努力を発揮する難しさ、それを乗り越えた時の達成感、数字として出る結果、喜んでくれる皆の笑顔、それが私たちを邁進させ、さらに陸上競技へのめり込ませるのだと思ひました。

私たちを支えてくださる方々のおかげでよりよい経験をさせていただいていることにとても感謝しています。来年は一高陸上部飛躍の年にしたいです。

囲碁将棋部

信州高総文祭に参加して

1年2組 千葉 神楽
私たちは、8月9日、10日にかけて長野県で行われた信州高総文祭の将棋部門、女子団体戦に参加してきました。

3人1チームで行われる団体戦で、私以外の2人は3年生。優勝しなければ引退となる大切な大会でした。

大会では、全体の2位で予選を通過しましたが、準決勝でライバル視していた愛知県南山高校に当たり、1勝2敗で負けてしまいました。

対局中に相手をリードできる手があったにもかかわらず、その手を見つけたことができなかったのが私の敗因だったと思います。これからの部活では、定石を強化しつつ、同学年の2人と協力しながら実力を高めていきたいです。最後にありますが、応援してくださった方々と素敵な先輩に心から感謝申し上げます。

英語部



もっと、もっと

3年7組 女鹿 笑奈

私たちは昨年12月、埼玉県で行われた全国高校生英語ディベート大会に参加してきました。盛岡一高としては未経験のことだっただけに、不安と希望を抱えながら会場に向かいました。

英語部、と聞いて何を思っている部活であるか知らない人も多いと思うのでここで私たちについて紹介したいと思います。主に平日は英語での競技ディベートに必要な資料集めや、実践的な英語力向上のためのトレーニングを積んでいます。大会前には Skype を用いて県内外の高校と練習試合を重ね、全国の仲間と切磋琢磨しながら論の切り口を模索していきま政策を導入するべきか否か」で

あったため、英語科の先生方はもちろん、社会科、国語科の先生方にもお世話になりました。本当に多くの方々を支えられて全国という素晴らしい舞台に立たせていただいたことに感謝しきれません。

そんな今大会での一番の学びは自分たちの伸びしろがまだまだあるということでした。今後とも更に深く面白い議論ができるよう精進して参りますので応援よろしくお願いします。

生物部

信州総文(全国高総文祭) 2018に参加して

3年3組 高橋 一真

私たち生物部は、「盛岡市内の植物相と外来植物の分布状況について」というテーマで研究発表部門に、「河川源流部の底生動物相



及び環境評価法」というテーマでポスター(パネル)部門で発表を行い、後者では、全国4、8に相当する奨励賞をいただきました。ポスター発表の審査は、8名の審査員に対して、発表を行った後、質疑が行われました。審査は2回行われ、事前提出の論文とあわせて採点されました。ポスターセッションでは、私たちが提唱した環境評価法の有用性などについて好評価をいただいた一方、それをより分かりやすく伝える方法についてご意見もいただきました。

今回の大会では、昨年は手の届かなかった全国大会での入賞を果たすことができ、本当にうれしく思います。また、全国のレベルの高い研究に触れることができ、非常に有意義な体験をできました。このような機会を与えてくださった方々に感謝し、この経験を今後の生物部の発展につなげていきたいと思っています。

美術部

全国高総文祭(信州総文)に参加して

3年5組 青山 美波

私は8月に長野県で行われた全国高等学校総合文化祭美術・工芸部門に参加してきました。制作段階ではまさか自分が全国展推薦をいただけるとは思っていませんでしたので、こうして総文祭に参加することができとても嬉しく思います。

作品の鑑賞を通じて、全国の入賞作品に触れ、発想や技術のレベルの高さに驚かされる中で多くの学びを得ました。交流会では少人数のグループに分かれて互いの作品の鑑賞をしました。自分の作品を伝えたり他人の評価を聞いたりできる機会はそうないので、とてもいい経験になりました。ま

た、プロの方の講演と講評も聞くことができ、美術についてより考えを深めることができました。今回吸収してきたことを活かして、これからも制作に励みたいと思います。同窓会の方々や、ご指導してくださった三田先生、関わった皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。



書道部

高総文祭長野大会に参加して

3年7組 八重樫 悠紀

全国高等学校高校文化祭に参加し、書道を通して新たな出会い新たな視点を築き上げることができたように思います。展覧会では全国の高多種多様な作品を鑑賞することが出来ました。どの作品も制作者の構想がしっかりと見え、作品への想いが伝わってくる素晴らしいものであり、刺激と感銘を受けました。また現地で的小作品制作を通して全国の高校生と交流し

天文部は、3年7組 川村 岳
天文部は、8月に長野県で行われた高総文祭自然科学部門で「大気光学現象」というものの研究成果を発表しました。これは、大気中の水滴に太陽光が作用することによって虹を虹ははじめとする様々な現象のことです。2年以上前から観測を続けていて、そのデータの正確な分析や独自の視点からの考察には自信がありました。やはり全国のレベルは高く、入賞には及びませんでした。

よりよい科学研究を目指して

天文部



たことはとても思い出深く印象に残る経験となりました。このような貴重な機会をいただけたことに感謝しています。ご支援をしてくださった白聖同窓会の皆様、本当にありがとうございました。

科学の甲子園に出場して
2年7組 西原 広樹
私達は、平成30年3月に埼玉県さいたま市で行われた第7回科学の甲子園全国大会に出場してきました。

科学部



の高校生との交流には、こういった場だからこそ得られる様々な知見がありました。自分たちが始めたこの研究を後輩たちに引き継ぎ、観測や考察を深め、より大きな成果を出してほしいです。この経験を大切にし、大学以降の研究活動の糧にしたいと思えます。

全国大会に参加して
2年3組 鎌田 花華
私たち放送委員会は、7月末にNHK杯全国高校生放送コンテス

放送委員会



そして翌日は、藻類の分析・LEDの性質に関する実験・ワイヤレス給電を用いたばたき機工作という3種類の実技競技に取り組みました。一高は、LEDの実験において全国優勝を成し遂げました。事前発表の競技であるばたき機工作は当日まで様々な準備をしてきましたが、本番では紆余曲折の末残念ながら想定していた結果には届きませんでした。全体を振り返ってみると、事前に準備をしっかりと行い本番では抜群のチームワークと科学的素養を発揮して楽しみながら競技に取り組めたことが、物理競技優勝を始めたとした様々な成果に繋がったと思います。



ト、8月末には全国総合文化祭に出場しました。NHK杯では、アナウンス部門で3年生2名、各番組部門で合わせて3作品が参加しました。結果、一高初の女子応援委員を取り上げた「法螺貝JK」が、3位相当である優秀賞をいただきました。この作品の制作にあたり、卒業生の方々にも多大なご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

白聖同窓会 Web ページの開設について

同窓会の活動を多くの会員に知っていただき、会員相互の交流に役立てたいという趣旨で、平成31年3月31日に開設することとなりました。ぜひご活用願います。

hakua-dousoukai.jp



※画面はイメージです



部活動の記録

平成29年12月～30年11月
県大会以上の主なもの

運動部

弓道部

【H29全国高等学校弓道選抜大会】

女子団体 予選

男子団体 予選

男子個人 鈴木龍雅 決勝進出

【H29岩手県高等学校新人大会弓道競技】

男子団体 決勝トーナメント1回戦

盛一 14-15 福岡工

女子団体 優勝（東日本大会出場）

権獲得、射道優秀賞獲得

決勝トーナメント

1回戦 盛一 12-10 釜石

準決勝 盛一 12-11 不来方

決勝 盛一 11-7 黒北

女子個人 梅村瑞希 1位

【岩手県高等学校総合体育大会】

男子団体 ベスト16

女子団体 出場

【全国高等学校弓道選抜大会岩手県予選会】

男子団体 予選36射14中

女子団体 予選36射21中

準決勝 12射4中

通算48射25中

個人戦女子 小野寺叶 2位

（全国選抜、東北選抜出場権獲得）

剣道部

【H29東北高等学校剣道選抜優勝大会】

男子団体戦 予選リーグ

盛一 2(5)-1(3) 白石（宮城県3位）

盛一 0(0)-1(3) 秋田商業（秋田県1位）

【岩手県高等学校選抜剣道大会】

男子団体戦

1回戦 ○盛一 代表戦 釜石 x

2回戦 x盛一 5人残り 花北

女子団体戦

1回戦 x盛一 2人残り 白百合○

【岩手県高等学校総合体育大会】

男子個人戦

高橋 中瀬 4回戦

女子個人戦

金野 ベスト16

男子団体戦 予選リーグ

x盛一 2(4)-1(3) 盛北○

○盛一 4(8)-1(2) 花東 x

女子団体戦 予選リーグ

○盛一 4(8)-1(3) 岩谷堂1(3) x

x盛一 0(0)-1(5) 白百合5(8) ○

【岩手県高等学校新人剣道大会】

男子個人戦

予選リーグ

小木 佐々木 4回戦

男子団体戦 3位

東北高等学校剣道選抜優勝大会出場

1回戦 盛一 5(8)-1(0) 岩手

2回戦 盛一 2(2)-1(2) 花北

代表決定戦 高橋 メー奥山

準決勝 盛一 4(7)-1(0) 花南

代表決定戦 高橋 メー奥山

【春季東北地区高校野球岩手県大会】

1回戦 盛一 5-12 専北

（8回コールド）

【全国高等学校野球選手権記念岩手大会】

1回戦 盛一 2-4 千厩

【秋季東北地区高校野球岩手県大会】

1回戦 盛一 5-15 黒工

（6回コールド）

【H29岩手県新人大会】

2回戦 盛一 2-1 花南

3回戦 盛一 0-4 専北

【サッカー2018 LEAGUE 2部】

1節 盛一 3-0 不来方 2nd

2節 盛一 5-0 北上翔南

3節 盛一 0-1 グルージャ盛岡

4節 盛一 5-3 花北

5節 盛一 5-1 盛岡市立 2nd

6節 盛一 3-1 江南義塾

7節 盛一 5-1 宮古

8節 盛一 2-0 不来方 II

9節 盛一 3-1 北上翔南

10節 盛一 1-3 グルージャ盛岡

11節 盛一 1-0 花北

12節 盛一 0-1 盛岡市立 2nd

13節 盛一 1-3 江南義塾

14節 盛一 2-0 宮古

【岩手県高等学校総合体育大会】 ベスト16

盛一 5-0 岩泉

盛一 3-0 一関

盛一 2-4 盛北

【2018サッカー選手権大会】

2回戦 盛一 2-1 水工

3回戦 盛一 1-4 不来方

【岩手県高等学校新人戦】 ベスト16

2回戦 盛一 3-0 大槌・山田合同

3回戦 盛一 0-3 盛商

【柔道部】

【H29全国高等学校柔道選手権大会】

東北地区大会

男子60kg級 大平剛右 2回戦

【岩手県高等学校総合体育大会】

男子団体戦

予選リーグ

盛一 4-1 一戸

盛一 5-0 千厩

2勝0敗で決勝トーナメント進出

決勝トーナメント

2回戦 盛一 2-3 岩手

女子団体戦

2回戦 盛一 2-0 江南義塾

3回戦 盛一 1-0 宮古

男子個人戦

60kg級 大平剛右 ベスト8

73kg級 濱戸真我 ベスト16

81kg級 内山裕大 3位

東北大会出場

女子個人戦

57kg級 大平愛依 ベスト8

【東北高等学校柔道大会】

男子81kg級 内山裕大 2回戦

【岩手県高等学校1・2年柔道体重別選手権大会】

男子60kg級 大平剛右 ベスト8

小沼侃士 ベスト8

山本瑞玖 ベスト8

男子81kg級 柳本幸輝 3位

女子52kg級 古館愛夏 3位

【岩手県高等学校新人柔道大会】

男子団体戦 2回戦

盛一 1-2 宮古水産

女子団体戦 3位

古館愛夏 大平愛依 小野寺風花

2回戦 盛一 2-1 宮古

3回戦 盛一 2-1 久慈

準決勝 盛一 0-3 不来方

男子個人戦 60kg級

大平剛右 3位

女子個人戦 52kg級

古館愛夏 3位

大平愛依 ベスト8

水泳部

【H29全国ジュニアオリンピック春季水泳競技大会岩手県予選会】

男子200m背泳ぎ 小笠原伊吹 1位

100m背泳ぎ 小笠原伊吹 1位

100m自由形 佐々木悠斗 4位

50m平泳ぎ 佐々木悠斗 4位

200m自由形 北館拓也 8位

400m個人メドレー 富手海陸 5位

【東北ジュニア選手権水泳競技大会】

男子100m背泳ぎ 小笠原伊吹 3位

200m背泳ぎ 小笠原伊吹 6位

女子100mバタフライ 佐々木咲耶 8位

200mバタフライ 佐々木咲耶 7位

【岩手県高等学校総合体育大会】

男子50m自由形 佐々木悠斗 5位

100m自由形 佐々木悠斗 6位

200m自由形 北館拓也 2位

400m自由形 上野輝希 8位

1500m自由形 北館拓也 4位

400m自由形 松原佑樹 8位

200m自由形 松原佑樹 3位

100m背泳ぎ 小笠原伊吹 2位

200m背泳ぎ 小笠原伊吹 2位

400m個人メドレー 平澤実祿 6位

400m個人メドレー 富手海陸 5位

400mフリーリレー 7位

小笠原、松原、北館、佐々木

800mフリーリレー 4位

佐々木、富手、小笠原、北館

400mメドレーリレー 5位

小笠原、中村更玖、北館、佐々木

女子800m自由形 小澤穂 6位

200m個人メドレー 天野里咲 3位

100mバタフライ 佐々木咲耶 4位

天野里咲 7位

200mバタフライ 佐々木咲耶 4位

400mフリーリレー 4位

佐々木、天野、滝口、小澤

800mフリーリレー 2位

佐々木、天野、滝口、小澤

400mメドレーリレー 6位

滝口、天野、佐々木、小澤

【東北水泳大会】

男子100m背泳ぎ 小笠原伊吹 6位

200m背泳ぎ 小笠原伊吹 3位

400mフリーリレー 16位

小笠原、富手、北館、佐々木

800mフリーリレー 15位

北館、富手、松原、佐々木

女子200mバタフライ 佐々木咲耶 9位

【全国ジュニアオリンピック夏季水泳競技大会岩手県予選】

男子50m平泳ぎ 中村更玖 8位

女子200mバタフライ 佐々木咲耶 3位

50m自由形 佐々木咲耶 3位

100mバタフライ 佐々木咲耶 5位

【全国高等学校総合体育大会】

男子200m背泳ぎ 小笠原伊吹 54位

男子200m平泳ぎ 小笠原伊吹 5位

【岩手県高等学校新人大会】

男子200m平泳ぎ 平澤実祿 5位

100m平泳ぎ 平澤実祿 6位

200m自由形 松原祐樹 6位

400m個人メドレー 富手海陸 3位

200m個人メドレー 富手海陸 3位

400mメドレーリレー 5位

富手、中村、松原、平澤

400mフリーリレー 5位

松原、平澤、中村、富手

女子200mバタフライ 佐々木咲耶 2位

100mバタフライ 佐々木咲耶 4位

200m個人メドレー 滝口美里 4位

400mメドレーリレー 5位

滝口、吉田、佐々木、小澤

400mフリーリレー 4位

佐々木、真岩、小澤、滝口

【東北高等学校新人大会】

女子200mバタフライ 佐々木咲耶 7位

【ソフトテニス部】

【H29岩手県高等学校室内選抜ソフトテニス大会】

男子団体戦

1回戦 盛一 0-3 黒沢尻北

【岩手県高等学校総合体育大会】

男子団体戦

1回戦 盛一 1-2 水商

女子個人戦

南部智里・田中玲帆 2回戦

女子団体戦

1回戦 盛一 0-3 久慈

【岩手県高等学校新人大会】

男子個人戦

鈴木泰太・川村颯太 3回戦

選抜大会出場

男子団体戦 ベスト16

東北選抜大会出場

2回戦 盛一 3-0 釜商工

3回戦 盛一 0-3 宮商

女子個人戦

小宮佳恵・大峠琴弓 2回戦

女子団体戦

1回戦 盛一 3-1 盛農

2回戦 盛一 1-2 千厩

【卓球部】

【岩手県高等学校総合体育大会】

男子学校対抗

1回戦 盛一 2-3 水沢

女子学校対抗

1回戦 盛一 2-3 金ヶ崎

【岩手県高等学校新人大会】

男子学校対抗

1回戦 水沢 2-3 盛一

2回戦 盛岡市立 3-0 盛一

女子学校対抗

1回戦 軽米 3-2 盛一

男子個人戦

1回戦 川村昂大

【テニス部】

【H29岩手県選抜室内テニス選手権】

男子シングルス 橋本大輔 3位

男子ダブルス 橋本大輔・佐藤哲汰（中央）

ベスト8

【岩手県ジュニアテニス選手権大会】

男子個人戦

八子慎太郎・高橋聖門 ベスト8

男子シングルス U18

橋本 大輔 3位

平澤健太郎 10位

蝦名 一晃 ベスト16

男子シングルス U16

八子慎太郎 8位

男子ダブルス U18

橋本大輔・佐藤哲汰（盛岡中央）

2位

蝦名 一晃・平澤健太郎 ベスト16

男子ダブルス U16

八子慎太郎・小田翔大

（北上T.A Jr） 3位

女子シングルス

加藤安奈 本戦5位

東北ジュニア選手権大会出場

松尾はな 本戦7位

東北ジュニア選手権大会出場

女子ダブルス

松尾はな・加藤安奈 本戦3位

【岩手県高等学校総合体育大会】

男子団体 準優勝

東北選手権大会出場決定

男子シングルス

橋本 大輔 ベスト8

東北選手権大会出場決定

蝦名 一晃 ベスト16

平澤健太郎 ベスト16

男子ダブルス

橋本大輔・八子慎太郎 ベスト8

女子団体 3位

東北選手権大会出場決定

女子シングルス

松尾 はな ベスト8

東北選手権大会出場決定

加藤 安奈 ベスト8

東北選手権大会出場決定

鹿糠 歩佳 ベスト8

東北選手権大会出場決定

【東北高等学校テニス選手権大会】

男子団体

大村朋・三浦敬之 梅村一輝・藤本翔 女子ダブルス 千田彩華・鹿糠歩佳 本戦準優勝 2位 【東北ジュニア選手権大会】 男子シングルス U18 橋本大輔 準々決勝 ベスト8 橋本大輔・佐藤哲汰（盛岡中央） 3位			ベスト8 ベスト16 ベスト16 ベスト16 2位 U18 ベスト8 （盛岡中央） 3位			【岩手県高等学校一年生テニス選手権大会】 男子ビギナーズクラス 沼崎幹太 2位 服部漢星 ベスト16 男子チャンピオンクラス 八子慎太郎 3位 沼崎幹太 3位 女子ビギナーズクラス 関華乃 3位 尾藤美有 3位 小川遥 3位 女子チャンピオンクラス 関華乃 3位 【NHK杯オープンテニスストーナメント（ジュニアの部）】 男子シングルス 橋本大輔 5位 八子慎太郎 3位 高橋聖門 3位 女子シングルス 鹿糠歩佳 3位 千田彩華 3位 千田彩華 3位			【岩手県高等学校新人テニス大会】 男子団体戦 3位 2回戦 盛一5―0盛南 準決勝 盛一3―0花北 決勝 盛一2―3岩手 ※代表決定戦 盛一1―3盛四 男子シングルス 橋本大輔 3位 八子慎太郎 3位 高橋聖門 3位 三浦敬之 3位 大村朋 3位 男子ダブルス 橋本大輔・八子慎太郎 2位 高橋聖門・三浦敬之 2位 梅村一輝・大村 朋 2位 女子団体 2位 東北選抜高校テニス大会出場権 1回戦 盛一4―1盛二 準決勝 盛一3―1白百合 決勝 盛一1―3盛三 FC4R 盛一3―1盛南 女子シングルス 女子 1位 99・3			鹿糠歩佳 3位 千田彩華 3位 佐藤真衣 3位 女子ダブルス 鹿糠歩佳・千田彩華 第2位 【東北選抜高等学校テニス選手権大会】 女子団体 7位 1回戦 盛一0―5東陵（宮城） FC1R 3―2青森東（青森） FC2R 0―3寒河江（山形） 【東北春季ジュニアテニス大会（U18）岩手県予選会】 男子シングルス 橋本大輔 3位 東北春季ジュニアテニス大会出場確定 八子慎太郎 6位 東北春季ジュニアテニス大会出場確定 高橋聖門 7位 東北春季ジュニアテニス大会出場確定 三浦敬之 3位 女子シングルス 鹿糠歩佳 2位 東北春季ジュニアテニス大会出場確定 千田彩華 5位 東北春季ジュニアテニス大会出場確定 佐藤真衣 初戦			【岩手チャレンジジャーズシングルス2018】 男子シングルス 沼崎幹太 3位 服部漢星 3位 女子シングルス 関華乃 1位 小川遥 3位 【岩手県ジュニアダブルス選手権大会】 男子ダブルス 橋本大輔・八子慎太郎 4位 東北インドアテニス選手権大会補欠候補 高橋聖門・三浦敬之 3位 藤本翔・沼崎幹太 3位 女子ダブルス 千田彩華・鹿糠歩佳 3位			西森、山下、愛木、佐藤 東北大会、インターハイ出場 【岩手県山岳競技団体選手選考会】 ボルダリング競技 少年女子 盛一A（田中・西森） 1位 盛一B（長牛・樋口） 2位 リード競技 少年女子 盛一A（田中・西森） 1位 盛一B（長牛・樋口） 3位 【東北高等学校登山大会】 団体女子 1位 99・1 西森、山下、愛木、佐藤 【東北総合体育大会】 少年女子 岩手チーム 国民体育大会出場 リード競技 1位 田中里旺・伊藤ふたば（盛岡中央） ボルダリング競技 1位 田中里旺・伊藤ふたば（盛岡中央） 【全国高等学校総合体育大会】 団体女子 7位 98・5 西森優、山下ちひろ、愛木伶依、佐藤百恵 【岩手県高等学校新人登山大会】 学校対抗の部 男子 3位 96・1 小松、片伯部、保科、福士 女子 1位 99・3 山下、山本、愛木、佐藤 チーム対抗の部 女子 89・2 長牛、館、吉田 オープン参加 【岩手県高校生クライミング大会】 男子 小松 夕葵 6位 女子 樋口 風花 2位 【全国高等学校選抜クライミング選手権大会】 女子 佐藤 百恵 3位 長牛明日香 6位			2回戦 盛一77―58盛四 3回戦 盛一59―68黒工 女子 1回戦 盛一65―84黒北 【岩手県高等学校総合体育大会】 男子 ベスト16 3回戦 盛一75―56不来方 4回戦 盛一56―102盛南 女子 ベスト16 2回戦 盛一70―46関二 3回戦 盛一78―65盛三 4回戦 盛一41―108一関修紅 【岩手県高等学校選抜大会】 男子 ベスト8 1回戦 盛一61―59黒北 2回戦 盛一82―64水一 準々決勝 盛一69―138関工 女子 1回戦 盛一49―111一関修紅			【バドミントン部】 【岩手県高等学校体育大会】 男子学校対抗 1回戦 盛一1―3西和賀 女子学校対抗 ベスト8 2回戦 盛一3―10盛農 3回戦 盛一3―11盛南 準々決勝 盛一0―3市立 女子個人対抗シングルス 原子内 3位 【岩手県種目別バドミントン選手権大会】 少年男子ダブルス 佐藤・岸 3回戦 少年女子ダブルス 大澤・高橋美 3回戦 【岩手県高等学校新人大会】 学校対抗 男子 1回戦 盛一1―3北上翔南 女子 1回戦 盛一2―3水南			【陸上競技部】 【岩手県高等学校総合体育大会】 総合成績 男子トラックの部 女子フィールドの部 男子100m 渡辺哲 8位 男子100m 佐々木星 2位 男子1500m 東北大会出場 1位 男子5000m 東北大会出場 8位 男子100mH 住吉夏南 8位 男子5000mW 岩瀬李奈 6位 走幅跳 山中愛仁果 2位 三段跳 山中愛仁果 1位 【東北高等学校陸上競技選手権大会】 女子走幅跳 山中愛仁果 7位 三段跳 山中愛仁果 2位			第2代表戦3回戦 盛一33―23盛岡中央 第2代表戦決定戦 盛一23―27盛南 【岩手県高等学校総合体育大会】 男子 ベスト8 2回戦 盛一30―13花南 3回戦 盛一25―27盛三 2回戦 盛一36―10水沢 3回戦 盛一30―27盛岡中央 準決勝 盛一16―27不来方 第3シード決定戦 盛一18―19盛四 【ラグビー部】 【岩手県高等学校総合体育大会】 Bブロック 3位 準決勝 盛一14―22（前半7―12）花東 3位決定戦 盛一38―24（前半17―7）盛北 【全国高等学校ラグビーフットボール大会岩手県大会】 一回戦 盛一52―5（前半26―0）盛三 二回戦 盛一21―66（前半14―26）花東 【岩手県高等学校新人大会】 Bブロック 4位 一回戦 盛一71―0（前半31―0）合同B （大船渡東・宮古工） 二回戦 盛一5―19（前半0―14）盛三 三位決定戦 盛一5―14（前半5―0）関工			【東北高等学校陸上競技大会】 男子800m 佐々木星 決勝3位 インターハイ出場 1500m 佐々木星 決勝7位 女子三段跳 山中愛仁果 2位 インターハイ出場 【岩手県陸上競技選手権大会】 男子1部800m 佐々木星 4位 男子1部1500m 佐々木星 2位 東北陸上競技選手権大会 女子1部100m 澤野祐希 7位 女子1部800m 齊藤遥菜 8位 女子1部500m 鷲津加子 3位 東北陸上競技選手権大会 1部走幅跳 山中愛仁果 4位 1部三段跳 山中愛仁果 3位 東北陸上競技選手権大会 【全国高等学校総合体育大会】 男子800m 佐々木星 準決勝 女子三段跳 山中愛仁果 予選2組12 【岩手県民体育大会陸上競技大会】 男子3部500m 澤野祐希 4位 4部500m 及川政宗 3位 4部走高跳 菅野颯汰 4位 女子10部800m 鈴木愛乃 3位 【岩手県高等学校新人陸上競技大会】 男子 総合5位 トラック3位 渡部哲 1位 渡部哲 2位 佐々木星 1位 佐々木星 1位 澤野祐希 4位 澤野祐希 3位 以上東北新人大会出場 女子 総合6位 フィールド3位 鈴木愛乃 4位 東北新人大会出場 鈴木愛乃 4位 東北新人大会出場 鈴木愛乃 4位 東北新人大会出場 田原彰名 7位 田原彰名 7位 山中愛仁果 1位 東北新人大会出場 山中愛仁果 1位 東北新人大会出場 山中愛仁果 1位 【国民体育大会】 少年男子共通800m 佐々木星 6位 少年女子共通三段跳 山中愛仁果 8位 【秋季陸上競技大会】 男子100m 渡辺哲 1位 1500m 澤野祐希 5位		
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--



4×100m R 6位
吉田悠人・渡部哲・菅原拓視・古畑諒人
女子100m H 田原彩名 7位
400m H 田原彩名 5位
走幅跳 山中愛仁果 3位
三段跳 山中愛仁果 1位
【全国高等学校駅伝競走大会岩手県予選会】

男子12位

1区 澤野祐希 7位
2区 佐々木星 1位
※区間新記録

3区 及川政宗 9位
4区 田村俊太郎 8位
5区 三澤悠翔 25位
6区 菅原拓視 25位
7区 小田中燦 6位
女子6位

1区 鈴木愛乃 6位
2区 鷲津加子 3位
3区 吉田悠 10位
4区 金村瑞歩 15位
5区 齊藤遙菜 4位
【U18日本陸上競技選手権大会】
男子800m 佐々木星 8位

文化部

囲碁・将棋部

【H29東北地区高等学校将棋新人大会】
女子個人戦 梅里彩夢 5位
田中真央 8位

【文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権岩手県大会】
男子団体戦 2位
伊藤大翔、田老亮太、柏木一孝
女子団体戦 2位
渡邊夏七子、梅里彩夢、田中真央

【岩手県高等学校将棋大会】
女子個人戦 渡邊夏七子 1位
男子団体戦 5位
金澤秀太郎、伊藤大翔、田老亮太

女子団体戦 優勝
田中真央、梅里彩夢、千葉神楽
女子個人戦 梅里彩夢 1位
千葉神楽 2位
田中真央 5位

【全国高校囲碁選手権大会】
女子個人戦 渡邊夏七子 予選
【全国高等学校総合文化祭囲碁部門】
女子個人戦 渡邊夏七子 34位
【全国高等学校総合文化祭将棋部門】
女子団体戦 3位

田中真央、梅里彩夢、千葉神楽
予選4試合
4勝0敗予選2位通過。
決勝トーナメント
2回戦 盛一3-0徳山(山口県)
準決勝 盛一1-2南山(愛知県)
【岩手県高等学校文化連盟将棋新人大会】
女子団体戦 優勝
石川怜 千葉神楽 鈴木幸恵
女子個人戦 千葉神楽 2位
鈴木幸恵 3位

英語部

【H29全国高校生英語ディベート大会】
5-埼玉 31位
2勝2敗1分
女鹿笑奈 菅原七恵 那須愛佳
大木戸七海 石井晴 畑山妃那
【岩手県 Kenji Cup 高校生英語ディベート大会】
Aチーム優勝 全国大会出場
三浦千明 畑山妃那 宮野加奈子
檜垣媛子 一条佳穂 組岩陽芽生
Bチーム3位
石井晴 柏崎郁乃 鈴木泉
菅原百代 伊藤優夢 佐々木悠人

演劇部

【岩手県高等学校総合文化祭演劇部門発表会】 優秀賞
「ファンタゼリーだったら永遠に蹴っていられる」(演劇部・作)

音楽部

【H29合唱賞アンサンブルコンテスト】
金賞
【全日本合唱コンクール岩手県大会】
金賞
【全日本合唱コンクール東北支部大会】
銀賞

【岩手県高等学校総合文化祭】
バンド名 Rubber Plant 優秀賞
町田心吾 菊地健太郎
佐々木花純 千田歩朗

写真部

【岩手県高等学校総合文化祭】
優良賞 千葉もみじ
「神様の通り道」

【岩手県高等学校書道作品コンクール】
奨励賞 稲垣花音 佐藤龍晟
【岩手日報高校書展】

優秀賞 千葉美月
秀逸賞 外山瑠璃子 八重樫悠紀
入選 稲垣花音
藤村快 小笠原彩賀
佐藤龍晟
【高校生国際美術展】
岩手県知事賞 多田福望
奨励賞 八重樫悠紀
佳作 川上凜 佐藤龍晟
千葉美月

全日本高校・大学生書道展

優秀賞 佐藤龍晟
準優秀 小笠原彩賀 下権谷萌衣
八重樫悠紀 稲垣花音

全国公募千字文大会

日本書道専門学校校長賞
佐藤龍晟
優秀賞 多田福望 田村水
秀作賞 菊池真由 馬場桃香
佳作 大津武 馬場桃香
(半紙部門)
賞候補特選 稲垣花音 佐藤龍晟
優秀賞 田村水 多田福望
秀作賞 菊池真由 馬場桃香
【国際高校生選抜書展】(書の甲子園)
入選 小笠原彩賀 外山瑠璃子
千葉美月 菊池真由 田村水

岩手県高等学校総合文化祭書道部門

(全紙の部 漢字・仮名部門)
優秀賞 佐藤龍晟
来年度全国大会代表候補
奨励賞 多田福望
入選 菊池真由 田村水
(半紙の部 漢字・仮名部門)
奨励賞 小笠原彩賀
(半紙の部 漢字・仮名交じり部門)
奨励賞 川上凜

【全日本学生書道展】
学会優秀賞 多田福望 佐藤龍晟
稲垣花音
学会奨励賞 馬場桃香
秀作賞 菊池真由 田村水
大津武

吹奏楽部

【H29全日本アンサンブルコンテスト第38回岩手県大会】
サクソフォーン四重奏 銀賞
野村潤 佐藤桃果 奥山和花
阿部里帆
打楽器5重奏 金賞
藤本愛里 前野美緒 木津今日子
菅野優奈 照井麻友子
【管打楽器ソロコンテスト北東北大会】

木津今日子 (hat) 金賞
東北大会出場権獲得
菅野優奈 (hat) 金賞
東北大会出場権獲得
瀧本桜 (S.B) 金賞
東北大会出場権獲得
伊藤颯希 (Hn) 銀賞
薄木千景子 (Bn) 銀賞
【全日本吹奏楽コンクール岩手県大会】
銀賞

生物部

【H29岩手県高等学校総合文化祭】
研究発表生物部門
最優秀賞「盛岡市内の河川源流部の生物相及び環境 評価法」
高橋一真 斎藤絵里佳 住吉正成
田口莉圭 鷹野慧
優秀賞「盛岡市内の植物相と外来植物の分布状況について」
鷹野慧 斎藤絵里佳 高橋一真
住吉正成 田口莉圭
全国高総文祭出場推薦
優秀賞「盛岡市内の植物相と外来植物の分布状況について」
斎藤絵里佳 鷹野慧 高橋一真
住吉正成 田口莉圭

全国高等学校総合文化祭

ポスター(パネル)発表
奨励賞「河川源流部の生物相及び環境評価法」
高橋一真 斎藤絵里佳 住吉正成
田口莉圭 鷹野慧
研究発表生物部門
文化連盟賞「盛岡市内の植物相と外来植物の分布状況について」
鷹野慧 住吉正成 高橋一真
斎藤絵里佳 田口莉圭

天文部

【H29岩手県高等学校総合文化祭】
研究発表地学部門
最優秀賞「大気光学現象に関する研究」
川村岳 船渡優香 小岩春馬
佐藤慧 小成晶紀 大向聡士
全国高総文祭出場推薦
優秀賞「大気光学現象に関する研究」

【全国高等学校総合文化祭】
研究発表地学部門 文化連盟賞
発表題「大気光学現象に関する研究」
川村岳 船渡優香 小岩春馬
佐藤慧 小成晶紀 大向聡士
全国高総文祭出場推薦
優秀賞「大気光学現象に関する研究」

美術部

【H29全国高等学校版画選手権大会】
団体の部 全国大会出場
吉田小百合 小倉博雅 鎌田千里
【高校生国際美術展 美術の部】
佳作 鎌田千里
【全国高等学校総合文化祭】
デザイン部門出品 青山 美波
立休部門出品 高橋 真優
【岩手県高等学校総合文化祭】
絵画部門
入選 福士諒馬 鎌田千里
山下あかり 田村唯李子
デザイン部門
入選 青山美波 鎌田千里
立休部門
入選 鈴木絵梨香
工芸部門
特賞 佐藤萌
全国高総文祭佐賀大会出場
入選 高橋真優
【学生ファッションデザイン】
優秀賞 山下あかり

【2018 ALL JAPAN コンテスト】
電信電話部門 マルチオベジュニア種目 全国2位
石倉瑠子 市川雄樹 大原玄
齋野大希 平裕郎 三浦靖之

文学研究部

【俳句甲子園地区大会】
予選 第一試合
盛一3-0盛岡中央Bチーム
第二試合
盛一0-3水沢Bチーム
1勝1敗予選リーグ敗退
筑後志宣 千葉秀策
四日市光太郎 村井真斗
中道翔太 工藤美己
【岩手県高等学校文芸コンクール】
部誌部門 優良賞
【H29東北高等学校放送コンテスト】

川村岳 船渡優香 小岩春馬
青木翔吾 佐藤慧 小成晶紀
大向聡士 廣瀬慎一
【全国高等学校総合文化祭】
研究発表地学部門 文化連盟賞
発表題「大気光学現象に関する研究」
川村岳 青木翔吾 小岩春馬
船渡結香 廣瀬慎一

美術部

【H29全国高等学校版画選手権大会】
団体の部 全国大会出場
吉田小百合 小倉博雅 鎌田千里
【高校生国際美術展 美術の部】
佳作 鎌田千里
【全国高等学校総合文化祭】
デザイン部門出品 青山 美波
立休部門出品 高橋 真優
【岩手県高等学校総合文化祭】
絵画部門
入選 福士諒馬 鎌田千里
山下あかり 田村唯李子
デザイン部門
入選 青山美波 鎌田千里
立休部門
入選 鈴木絵梨香
工芸部門
特賞 佐藤萌
全国高総文祭佐賀大会出場
入選 高橋真優
【学生ファッションデザイン】
優秀賞 山下あかり

物理部

【2018 ALL JAPAN コンテスト】
電信電話部門 マルチオベジュニア種目 全国2位
石倉瑠子 市川雄樹 大原玄
齋野大希 平裕郎 三浦靖之

文学研究部

【俳句甲子園地区大会】
予選 第一試合
盛一3-0盛岡中央Bチーム
第二試合
盛一0-3水沢Bチーム
1勝1敗予選リーグ敗退
筑後志宣 千葉秀策
四日市光太郎 村井真斗
中道翔太 工藤美己
【岩手県高等学校文芸コンクール】
部誌部門 優良賞
【H29東北高等学校放送コンテスト】

【NHK杯全国高校放送コンテスト】
ラジオドキュメント部門
優秀賞 法螺貝JK 監督 久慈春花
【高校生交通安全テレビCMコンテスト】
特別賞「標識のねがい」
【岩手県高等学校放送新人大会】
アナウンス部門
優秀賞 鎌田花華 全国大会・東北大会出場
優良賞 佐藤春菜 東北大会出場
入選 藤原羽沙 東北大会出場
朗読部門
優秀賞 西森菜々花 全国大会・東北大会出場
ラジオキャンペーン部門
優秀賞「イケメンボイスが届かない」 東北大会出場
優良賞「春を呼ぶジングルベル」 東北大会出場
テレビキャンペーン部門
優秀賞「?/百八」 東北大会出場

放送委員会

【H29東北高等学校放送コンテスト】

放送委員会

【H29東北高等学校放送コンテスト】

海外派遣報告



第39回生徒海外派遣 (白聖の翼) 参加

2年7組 藤本 翔

私は今回のイギリスでの研修で、英語との距離が近くなったと感じています。日本との連絡も極力英語という迷惑行為をしていた私は、完全に英語に包まれ「生きた英語」を感じることができました。最初は長い英文に抵抗を感じていましたが、次第に分量にも慣れ当然のように読めるようになりました。受験英文ではお目にかかれない粋な英語らしい言い回しに感動し、英語的な文章のコツを掴み、英語が好きになっていった1ヶ月間でした。

イギリスの街を見て思ったことは自然や歴史的環境を守るナショナルトラストの活動が盛んであるということです。私の印象だと大半の人が会員になっていて、郊外はもちろん都市部でもちらほら活動に参加・保護されている施設があり、様々なことが楽しめそうだと思います。日本でも保護活動、観光資源化に活かしていけそうだと思います。

最後に、イギリスでは数え切れないほどたくさんのことを学ばせていただきました。この研修に参加するにあたってお世話になった皆様に心から感謝申し上げます。

引率者 教諭 菅原 将成

平成29年度第39回「海外派遣団」は、平成30年3月2日より28日までの約1ヶ月間にわたり、生徒10名引率教員2名で、イングランド、コッツウォルズ地方に行つて参りました。

ロンドンの西側に広がるこの地方は、稜線が遙かに見渡せる丘の上で羊たちが草を食み、コッツウォルドストーンという「はちみつ色」の石灰岩で作られた家々が散在する、なだらかな丘陵地帯です。その趣ある景色は、「イギリス国民の心のふるさと」とも言われ、北海道出身の私もなぜか郷愁をくすぐられる風景が広がっています。また、近隣には、シェイクスピアが生まれ育ったストラットフォード・アポ

ン・エイボン、学園都市オックスフォード、「風呂」の語源ともなったバースなど、恥ずかしながらイギリスについては全く無学であった私もどこかで耳にしたことがある有名な町が多くあります。

私たちは主にその地方の玄関口であるチェルトナム市周辺にホームステイし、現地の学校を拠点として語学研修をしたり、貸し切りバスに乗って前述の歴史的・文化的名所を巡ったりしました。

現地受け入れ校のレンコム・カレッジは、幼稚園から高校まで揃った、私立の学園です。創立者は地元の資産家であり、まるで城のような居宅を校舎にし、野生の鹿を放し飼いにできるほどの広大な敷地を有しています。敷地内には男女別々の寮があり、生徒の半数以上は親元を離れて寮生活を営んでいます。それぞれの学年の生徒数は多くて50人程度で、1人ひとりに手厚い教育が実現していました。そのような充実した教育環境のなか、本校生徒は英語から数学、生物にいたるまで様々な授業を受け、ときには教会のサーブスに参加したり、留学生同士の交流イベントに出たり、講演を聴いたり、多くの貴重な体験をさせていただきました。そのような生活の中で、現地生徒との交流も深まり、生徒にとって実り多い、本当に充実した研修となりました。

ホームステイ先も実に温かい家庭ばかりで、生徒も十分満足だった様でした。また、現地のスタッフの方たちが学習面、生活面のすべてをコーディネートしてくださる大変な状況で、受け入れ態勢は万全でした。

最後に、このような貴重な機会を支えてくださった同窓会の皆様、大変ありがとうございました。なお、詳細は報告冊子もご覧いただけます。



平成30年度 大学合格者数一覧

■国立大学

大学名	現役	過卒
北海道大	2	1
北海道教育大	1	
弘前大	5	
岩手大	28	4
東北大	34	14
宮城教育大	2	1
秋田大	3	1
山形大	3	1
福島大	3	
筑波大	1	3
宇都宮大	1	2
埼玉大	4	2
千葉大	6	
お茶の水女子大	1	
電気通信大	1	3
東京大	5	3
東京外国語大	1	

■公立大学

大学名	現役	過卒
東京学芸大	2	1
東京工業大		1
東京海洋大	2	
一橋大	1	
横浜国立大	1	2
新潟大	3	2
富山大		1
金沢大		1
信州大	2	
静岡大	1	
名古屋大	1	1
京都大		1
神戸大		1
大阪大		1
奈良教育大	1	
合計	115	47

■私立大学

大学名	現役	過卒
青山学院大	4	6
慶應義塾大	2	6
国際基督教大		1
上智大		1
中央大	10	8
東京理科大	4	6
法政大	8	9
明治大	10	6
立教大	2	4
早稲田大	8	8
その他	87	22
合計	135	77

■医学部医学科

大学名	現役	過卒
弘前大	2	
東北大	1	2
秋田大	2	1
山形大	1	
福島県立医科大		1
筑波大		1
千葉大	1	
名古屋大		1
岩手医科大	5	10
自治医科大	3	
獨協医科大	2	1
防衛医科大		1
東北医科薬科大	1	2
大阪医科大		1
杏林大		1
埼玉医科大		1
東京女子医科大		1
藤田保健衛生大		1
合計	18	25



恵 贈 (敬称略)

- ①新盛岡物語 (写し) 吉田政吉
盛岡わたくし写真帳 藤村 政道
藤村 政道 (昭和 34 年卒)
- ②ベナント 6 点 (昭和 43 甲子園出場含み)
「白聖」14 ~ 16 号
昭和 53 甲子園出場決定掲載の各紙
(岩手日報・朝日・読売・スポニチ)
昭和 43 甲子園出場掲載の岩手日報
と産経新聞
甲子園大会特集号の「週刊朝日」
(昭和 43)
現代の名門高校で一高掲載の
「週刊読売」
第 50 回甲子園大会 (昭和 43)
レコード
福田隆氏デザインのテーブルクロス
昭和 40 年代の盛岡一高新聞
熊谷 秀司 (昭和 45 年卒)
- ③「悲しき玩具」石川啄木 近藤典彦 編
「一握の砂」 石川啄木 近藤典彦 編
山田 武秋 (昭和 42 年卒)
- ④日本神話はいかに描かれてきたか
近代国家が求めたイメージ
及川智早
及川 智早 (昭和 54 年卒)
- ⑤白聖 25 会会報 第 37 号
白聖 25 会 (昭和 25 年卒)
- ⑥在京白聖會二報 45 号
在京白聖会
- ⑦金融再編の深層
高橋温の証言 高橋 温
年年歳歳 高橋 温
高橋 温 (昭和 35 年卒)

昭和 26 年 卒	昭和 26 年 卒	昭和 26 年 卒	昭和 26 年 卒	昭和 26 年 卒	昭和 25 年 卒	昭和 25 年 卒	昭和 25 年 卒	昭和 25 年 卒	昭和 23 年 卒	昭和 23 年 卒	昭和 22 年 卒	昭和 22 年 卒	昭和 20 年 卒	昭和 20 年 卒	昭和 19 年 卒	昭和 18 年 卒	昭和 17 年 卒	昭和 17 年 卒
藤 原 秀 雄	根 反 弘	中 村 泰 士	奥 野 義 弘	石 ヶ 森 俊 道	齋 藤 喜 夫	石 川 桂 司	安 保 隆 治	荒 川 栄 一	馬 場 俊 夫	澤 田 公 任	川 村 八 郎	池 野 昭 三	三 浦 五 郎	坂 本 俊 已	伊 藤 嘉 一	宮 禮 二 郎	橋 幸 紀	佐 々 木 長
平 成 26 年 卒	昭 和 48 年 卒	昭 和 48 年 卒	昭 和 40 年 卒	昭 和 38 年 卒	昭 和 38 年 卒	昭 和 38 年 卒	昭 和 38 年 卒	昭 和 38 年 卒	昭 和 37 年 卒	昭 和 32 年 卒	昭 和 31 年 卒	昭 和 28 年 卒	昭 和 28 年 卒	昭 和 28 年 卒	昭 和 28 年 卒	昭 和 27 年 卒	昭 和 27 年 卒	昭 和 27 年 卒
澤 瀬	中 安	鈴 木 明	土 村 明	吉 田 公	山 口 千	平 野 秀	高 橋 邦	葛 西 利	本 宮 勝	高 畑 英	小 野 寺 哲	山 田	多 田	工 藤	小 野 寺 長	米 山 哲	浅 沼 榮	一
燈	子	彦	徹	一	冬	三	夫	男	彦	機	也	秩	尚	多 美 子	道	郎	一	

心からご冥福をお祈りいたします。(平成 29 年 11 月 1 日以降ご逝去され、平成 30 年 10 月 31 日までに事務局にご連絡いただいた方々です。)

計 報

白聖記念館来館者

白聖記念館来館の折には、ぜひ記帳をお願いいたします。

平成 22 年 卒	平成 23 年 卒	昭和 59 年 卒	昭和 52 年 卒	昭和 51 年 卒	昭和 50 年 卒	昭和 48 年 卒	昭和 46 年 卒	昭和 45 年 卒	昭和 44 年 卒	昭和 40 年 卒	昭和 39 年 卒	昭和 39 年 卒	昭和 35 年 卒	昭和 33 年 卒	昭和 32 年 卒	昭和 32 年 卒	昭和 30 年 卒	昭和 30 年 卒	昭和 28 年 卒	昭和 27 年 卒	昭和 25 年 卒
阿 部 広 大	川 辺 朋 野	手 島 瑞 夫	切 替 典 宏	野 口 真 康	同窓会副会長 阿 部 弘 一	塩 谷 幸 彦	同窓会副会長 林 晶 子	同窓会副会長 藤 尾 善 一	後 藤 好 伸	土 樋 光 雄	高 橋 瑛 至	村 井 玲 子	川 瀬 和 子	秋 田 律 温	高 橋 一 ノ 渡 彦	國 分 智 子	伊 藤 尚 喜	佐 々 木 耕 作	高 橋 泰 弘	伊 藤 泰 二	高 橋 恭 史

平成 29 年 11 月 1 日、平成 30 年 10 月 31 日の間に記念館に来館された方々です。

事務局から

会費納入のお願い

白聖同窓会費の納入につきましては、東日本大震災が発生した平成 23 年以降、近年々々減少傾向にあり、近年は年間 5000 件を下回る状況が続いております。

納入いただいた会費は、本会報に掲載しております。決算書のとおり、白聖同窓会総会や年次代表者会議、常任理事会等の開催、各地区白聖会等への役員派遣、同窓会報「白聖通信」の発行など同窓生相互の交流のために使わせていただいております。新入生への入学記念品、全国大会、東北大会等に出場する各部に対する部活動奨励費、同窓生を学校にお招きして実施するキャリアアップ講演会、生徒海外派遣事業(白聖の翼)など、現役一高生の育成支援にも有効に活用させていただいております。

しかしながら、近年の会費納入の減少により、同窓会活動の規模縮小、現役生徒への支援見直し等を検討せざるを得ない状況となっております。

つきましては、同窓生の皆様には、こうした状況を十分ご理解いただき、白聖同窓会費の納入について、格段のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、例年、白聖同窓会費と各地区同窓会費を混同して納入される方がおられますので、お間違いのないようお願いいたします。

自彊寮新規入寮生の募集停止について

歴史と伝統を誇る「自彊寮」ですが、交通機関の発達に伴う自宅通学生の増加による入寮生の減少、それに伴う入寮生の経費負担の増大、建物の老朽化等により維持管理が難しい状況となりました。つきましては、平成 31 年度の入学生から募集を停止することといたしましたので、同窓生の皆様にお知らせいたします。

『白聖通信』38号編集委員

- ◎小 王 豪 (平 9 年卒)
佐々木 一 子 (平 9 年卒)
藤 村 秀 樹 (平 9 年卒)
松 田 俊 記 (平 10 年卒)
工 藤 朋 (平 10 年卒)
村 井 聡 (平 10 年卒)
常任幹事
菊 地 研 也 (昭 53 年卒)
佐久山 衛 (昭 61 年卒)
同窓会事務局
(副校長) 坂本美知治
(副校長) 阿部 圭次 (昭 56 年卒)
(副校長) 酒井 典生 (昭 60 年卒)
(副校長) 瀧川小百合 (昭 61 年卒)
(事務局長) 木村 有里 (平 24 年卒)
(事務局長) 吉田 美保子
◎委員長 ◎副委員長
太鼓マークデザイン
福 田 隆 (昭 10 年卒)
印刷・製本
川口印刷工業株式会社
制作・進行
千葉直見 (昭 54 年卒)